

# ほすびたる

No.780

令和7年9月20日  
福岡県病院協会

C O N T E N T S

- |        |                                   |  |       |    |
|--------|-----------------------------------|--|-------|----|
| 声      | 医療業界の承継問題について                     | 公益社団法人福岡県病院協会 参与<br>(株)西日本シティ銀行執行役員法人ソリューション部長 | 井上 和之 | 1  |
| 新人物    | 就任のご挨拶                            | 公立学校共済組合九州中央病院<br>病院長                          | 北園 孝成 | 4  |
|        | 就任のご挨拶                            | 福岡歯科大学医科歯科総合病院<br>病院長                          | 鳥巢 浩幸 | 5  |
|        | ごあいさつ                             | 嘉麻赤十字病院<br>院長                                  | 波多江 健 | 6  |
| 病院管理   | 未曾有の経営危機を迎えて                      | 社会医療法人天神会新古賀病院<br>総病院長                         | 島 弘志  | 7  |
|        | 日本整形外科学会社会保険等委員会の活動 保険審査平準化への取り組み | 朝倉医師会病院<br>院長                                  | 志波 直人 | 9  |
|        | 当院における組織改編について                    | 社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院<br>病院事務部 統括部長                | 岡村 亮  | 11 |
|        | 病院機能評価受審を終えて                      | 嶋田病院<br>診療支援部 部長                               | 今村 知美 | 14 |
| 看護の窓   | 新任の挨拶と新病院での看護部の取り組み               | 済生会八幡総合病院<br>看護部長                              | 大原 朋子 | 15 |
| Letter | 医学・医療の歴史物語 その10～九州大学医学部草創期の物語     | 国立病院機構九州医療センター 名誉院長<br>学校法人原学園看護専門学校 顧問        | 朔 元則  | 18 |
| Essay  | 人体旅行記 乳房（その二十九）                   | 国立病院機構都城医療センター<br>院長                           | 吉住 秀之 | 25 |
|        | 福精協の広場 「じまんの石」                    | 医療法人隆幸会 河内病院<br>法人事務局長                         | 江口 健  | 26 |
|        | 福岡県私設病院協会 令和7年7月～8月の動き            |  |       | 27 |
|        | 編集後記                              |  | 岡嶋泰一郎 | 29 |

# Teleradiology Service. and ASP Service.

確かな診断を、より確かなものに。  
ネットワークを利用した読影サービスで、  
あなたをバックアップします。



## Teleradiology

～遠隔画像診断サービス～  
医療に地域格差があってはならない  
そう私たちは考えます。

## ASP Service

～遠隔画像診断ASPサービス～  
放射線科の先生方向けに、遠隔  
読影システムから課金に至るまで  
統合的にサービスをご提供します。

## 株式会社ネット・メディカルセンター

〒815-0081 福岡市南区那の川1丁目24-1  
九電工福岡支店ビル6階  
フリーダイヤル:0120-270614 FAX:092-533-8867  
ホームページアドレス <http://www.nmed-center.co.jp/>

病院寝具・病衣・白衣・タオル及びカーテン・ベットマットのリース・洗濯  
入院セット・患者私物衣類の洗濯・紙おむつ販売・給食・配茶

福岡県私設病院協会グループ

## 福岡医療関連協業組合

理事長 中尾 一久

専務理事 津留 英智  
理事 江頭 啓介  
理事 松村 順  
理事 木村 寛

理事 鬼塚 一郎  
監事 田中 圭一  
監事 横倉 義典  
事務局長 日比生英一



JQA-QMA  
15863



〒811-2502 糟屋郡久山町大字山田1217-17  
TEL(092)976-0500 FAX(092)976-2247

Clean & Comfortable

清潔さと快適さを追求します



# 声 VOICE

## 医療業界の承継問題について

公益社団法人福岡県病院協会 参与  
(株)西日本シティ銀行 執行役員 法人ソリューション部長 井上 和之

はじめに、私たち西日本シティ銀行は2024年に合併20周年を迎えました。これもひとえに日頃からご愛顧いただいている皆様のおかげであり、改めてお礼申し上げます。

また、日々医療の最前線で尽力されている皆様に対し、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

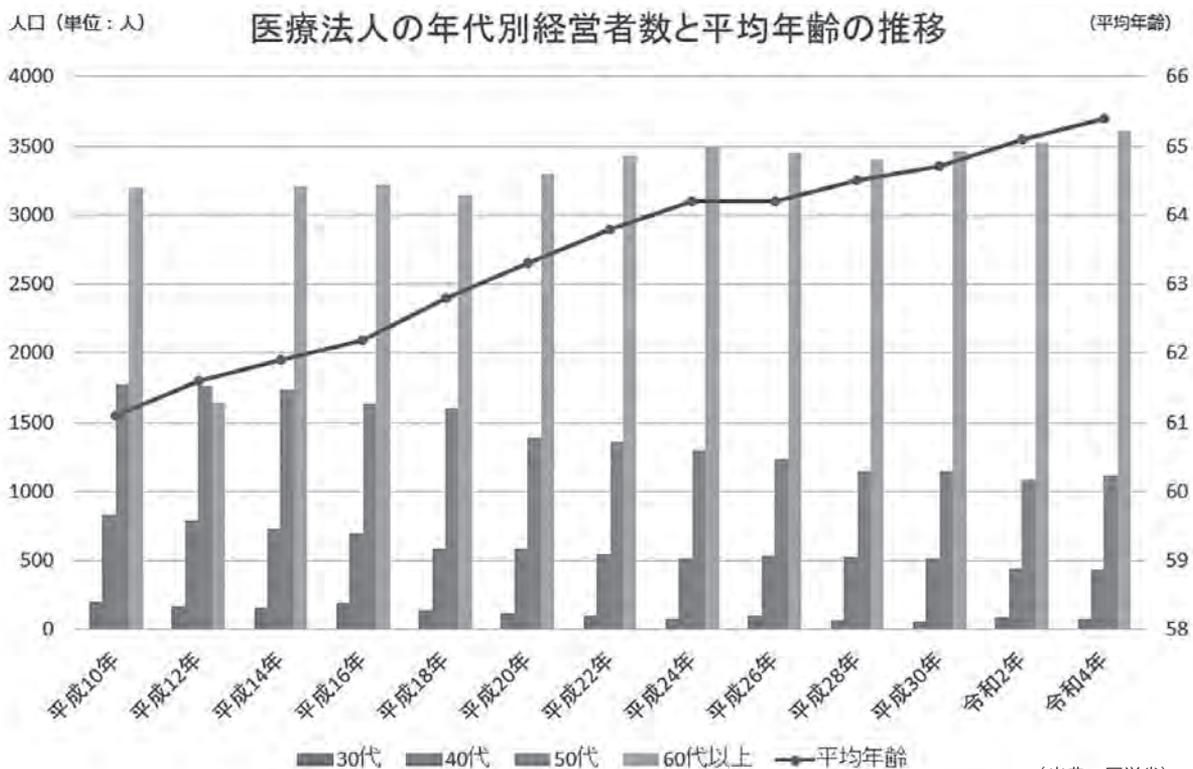
さて近年の医療業界は、新型コロナウイルス感染拡大を経ての患者動態の変化や高齢化、診療報酬改定、人材不足など、様々な問題に直面しています。これらの問題は医療の質を維持しつつ地域で持続可能な経営を行う上での大きな障害となっており、医療機関の皆様は日々悩まれていると存じます。そうした中、特に最近では経営者の皆様か

ら承継についてのお話を聞く機会が増えました。

2025年度現在、日本は全人口の5人に1人が後期高齢者となっており、今後は更なる超高齢化社会になることが想定されています。帝国データバンクの「2024年全国社長年齢分析」によると、全国の経営者平均年齢は60.7歳となっており、1990年の平均年齢54歳以降、この34年間で経営者の平均年齢が約6歳も上昇しています。

一方で医療業界に照らした場合は次の通りです。厚生労働省が公表している「医師・歯科医師・薬剤師統計」(2024年分)によると、「病院の開設者または法人の代表者」の平均年齢は65.4歳となっています(図①を参照)。これは先に述べた日本の経営者全体の平均年齢と比べてさらに5

図① 医師・歯科医師・薬剤師統計



歳近くも年齢が高くなっているのがわかります。

この高齢化の背景には医療法で医療法人の経営者は原則医者でなければならないといった制限もありますが、主な要因としては後継者の不在が関係していると思われます。帝国データバンクの「全国後継者不在率調査」によると、全業種の中で医療業の後継者不在率は61.8%と3番目に位置しています（図②を参照）。これは後継者側目線での「経営者になりたくない。（経営リスクを受容できない）」、「県外などで勤務医をしており、生活基盤がそこにある」、「承継ではなく、新規でクリニックを開業したい」などの考えが理由と想定されます。一方で「厳しい経営環境を踏まえ、あえて子供には継がせたくない」といった考えもあります。こうした背景から、医療法人の承継問題はますます深刻化していくと想定されます。一見、統計上の後継者不在率は改善しているものの、引き続き高止まりしている状況です。医療機関が地域社会に果たす役割は非常に大きく、人々の健康と生活の質を支える上で重要なインフラとなっていることは周知の事実です。つまり、承継問題は「医療機関だけの問題ではない」という認識のもと、承継に対する備えを早くから考えておく必要があります。

図② 全国後継者不在率調査出典

| 後継者不在率 上位・下位5種 |                | (単位：%) |       |       |
|----------------|----------------|--------|-------|-------|
|                |                | 2023年  | 2024年 | 前年比   |
| 1              | 自動車・自転車小売      | 66.4   | 64.9  | ▲ 1.5 |
| 2              | 鑑別工事業          | 64.6   | 63.0  | ▲ 1.6 |
| 3              | 医療業            | 65.3   | 61.8  | ▲ 3.5 |
| 4              | 専門サービス         | 63.4   | 61.0  | ▲ 2.4 |
| 5              | 設備工事業          | 61.0   | 60.1  | ▲ 0.9 |
| 44             | 輸送用機械器具製造      | 43.6   | 41.4  | ▲ 2.2 |
| 45             | 窯業・土木製品製造      | 42.1   | 41.1  | ▲ 1.0 |
| 46             | パルプ・紙・紙加工品製造   | 39.0   | 36.9  | ▲ 2.1 |
| 47             | 化学工業・石油・石炭製品製造 | 37.6   | 35.7  | ▲ 1.9 |
| 48             | 金融・保険業         | 38.0   | 34.1  | ▲ 3.9 |

(出典：データバンク)

ここで承継に関する三つの方法と、その特徴についてご紹介します。

一つ目は「親族内承継」です。経営者のご息・ご息女以外にも、甥や姪などに引き継ぐケースを想定しており、他の事業承継と比べて、育成期間に余裕を持たせやすいこと、経営権・経営資源・物的資産の3要素の承継時期を比較的柔軟に決めることが可能なほか、従業員や取引先から心情的に受け入れられやすいことも特徴です。事業承継では、周囲の納得を得ることも重要なため、後継者に現場の仕事を教えつつ従業員との関係作りがうまくいくよう導くことも大切です。課題としては、後継者候補の方へ承継に対する意思確認を慎重に行う必要があることです。本人への意思確認を後回しにした結果、最終的に後継者候補に承継を断られた場合、候補者の再選定に時間を要すこととなります。

二つめは「院内承継」です。親族外の役員や勤務医に引き継ぐことを指します。一般的な流れとしては、まず後継者に経営理念やマネジメントなど経営者としての仕事を教えるなどして経営資源の承継を進めつつ、時期を見て経営権の承継（代表者交代）と物的資産の承継（出資持分など）を行うものです。特徴としては、候補者の人間性や仕事ぶりを近くで見たうえで選定できること、実務上の引き継ぎ負担が比較的少ないこと、他の従業員からの納得感が生まれやすいことが挙げられます。課題としては、候補者が他の役員や勤務医との関係性の変化を気にして、辞退する可能性があることです。また、複数の候補者がいるケースでは、選ばれなかった役員・勤務医が離職するリスクもあります。そして出資持分を買い取る場合、個人の負担が多額となり、承継する役員・勤務医の個人資産では対応できない場合もあります（その場合、金融機関など外部から借入を行う必要があります）。

三つめは「M&Aによる事業承継」です。広く第三者から後継者にふさわしい人物（法人）を探し、事業を引き継ぐことが可能です。法人全体を承継することもあれば、事業の一部を譲渡するケースもあります。特徴としては「地域医療を存続させることができる」、「従業員の雇用を守れ

図③ 事業承継の種類について

| 事業承継の種類        | 特徴  | 課題  | 譲渡スキーム  |
|----------------|---|---|---|
| 親族内承継          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・承継後の経営方針や文化等が引き継がれやすい。</li> <li>・従業員や患者から安心感が得られやすい。</li> <li>・承継に併せて物的資産を引き継ぐことも可能。</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者の適正問題、経営方針の不一致</li> <li>・親族内での経営が続くことで外部からの意見が入らなくなり、視野が狭くなる可能性がある。</li> <li>・出資持分ありの場合、評価額次第では持分買取資金を個人で準備する必要がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出資持分の譲渡または払い戻し。(持ち分ありの場合)</li> <li>・役員退職金支出。</li> <li>・社員の入れ替え。</li> </ul>          |
| 院内承継           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間性や仕事振りを知っている人のため、納得した選定がしやすい。</li> <li>・従業員や患者から安心感が得られやすい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の候補者がいる場合、非選択候補者が離職するリスク</li> <li>・出資持分ありの場合、評価額次第では持分買取資金を個人で準備する必要がある。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出資持分の譲渡または払い戻し。</li> <li>・持分無しの場合、役員退職金を支払後、社員を入れ替える。</li> <li>・社員の入れ替え。</li> </ul> |
| M&A<br>(第三者承継) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望条件に合う承継人を幅広く探すことが可能。</li> <li>・承継人(承継会社)のスキルや資源により、経営戦略の幅が広がる。</li> <li>・仲介会社や銀行など外部企業を活用して候補者を探すことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望条件で売却できるとは限らない。(時間をかけた後に、交渉決裂することも)</li> <li>・風評リスク。</li> <li>・仲介業者や銀行を通じて成約した場合、成約手数料が発生する。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出資持分の譲渡または払い戻し、役員退職金の支払い、社員の入れ替えなど、個別で条件を交渉する。</li> </ul>                           |

る」ことの他に「売却益を得られる」等が挙げられます。課題としては、「ふさわしい相手が見つからない」、「情報が外部へ漏れる」、「希望条件で売却できない」可能性があり得ます。トラブルに発展しないためにも専門家（例えば銀行など）を適切に活用し、進めることが大切です(図③参照)。

これらを踏まえて事業承継を円滑に進めるためには「いつ(時期)」、「誰に(対象者)」、「どのようにして(手段)」等のロードマップを明確にしたうえで余裕を持った準備を進めることが重要です。

私ども西日本シティ銀行では法人ソリューション部内にヘルスケアチームの他、M&A チーム・専門ファイナンスチーム等を配置し、「医療機関は地域において最も重要なインフラである」との認識のもと、内部環境分析や外部環境分析、事業計画策定支援、業務効率化支援、事業承継支援等のソリューション提供に努めております。これらの経営課題解決サポートを通じ、地域医療の発展に微力ながら貢献させていただきたいと考えておりますので、何かございましたらお気軽にご相談ください。

一番大切な思いやり…

# 「安心・安全・清潔」



医療関連  
サービスマーク認定

太陽セランドグループ会社

■ 太陽セランドホールディングス株式会社 ■ 太陽セランド株式会社 ■ 太陽シルバーサービス株式会社 ■ ジャパンエアマット株式会社 ■ 株式会社北九州シーアイシー研究所

**TAIYO 太陽セランドグループ**

**太陽セランドホールディングス株式会社**  
〒812-0044 福岡市博多区千代 1-1-5  
TEL 092-641-2578 FAX 092-641-5778

**太陽セランド株式会社**  
〒826-0042 福岡県田川市大字川宮 1200  
TEL 0947-44-1847 FAX 0947-44-5805

代表取締役 社長 **中島 健介**

お問い合わせ TEL 0947-44-1847    Mail [info@taiyoseland.co.jp](mailto:info@taiyoseland.co.jp)    Web <http://www.taiyoseland.co.jp>

## 就任のご挨拶

公立学校共済組合  
九州中央病院

病院長 北園 孝成



本年4月に公立学校共済組合九州中央病院の院長に就任いたしました北園孝成と申します。私は1984年に九州大学を卒業し、九州大学第二内科（病態機能内科学）に入局しました。専門は脳循環代謝学であり脳卒中を中心に内科の診療と研究に取り組んでまいりました。1991年から2年半の間、米国アイオワ大学に留学して脳循環に関する基礎研究に従事し、1996年に九州大学に戻り、今年の3月まで29年間勤務いたしました。この間、2011年に病態機能内科学の教授を拝命し、また、2019年から4年間医学研究院長を併任しました。本年4月1日から当院の病院長として地域医療に取り組んでおります。

九州中央病院は、公立学校共済組合を事業母体として、公立学校に勤務しておられる教職員とそのご家族のためのいわゆる職域病院として1957年に開院しました。開院当初は一般病床24床、結核病床306床という構成で教職員の結核療養を主体としていましたが、その後、1971年に結核以外の一般の疾患を診療する病院に転換し、現在ではICU8床、HCU16床、一般病棟292床、緩和ケア病棟14床という構成となり、「救急医療」と「がん診療」を2つの柱に地域の皆様に最新の医療を提供するために努力しています。さらに公立学校共済組合の組合員の心身の健康を守るために、健康管理センターとメンタルヘルスセンターを設置して、健診事業やメンタルヘルスケアに力を入れています。

当院の基本理念は「病んでいる人の人権を尊重し、健やかで心豊かな社会をつくるための医療を提供する」ことです。患者さんの気持ちを大切に患者さんに寄り添いながら安全かつ最善の医療を提供するために職員が一丸となって努力しております。また、常に向上心を持ち何事にも積極的に前向きに対処すること、医療を受ける方々の立場に立った満足の得られる医療を行うこと、質の高い高度な医療を目指すこと、合理的で無駄のない医療および医療経営を行うことを基本方針として、地域医療に貢献していきたいと考えております。

私は、医療人にとって病気に苦しむ患者さんに満足していただける医療を提供するとともに、医療に携わる私たち自身も満足できる、そんな医療を行うことが重要であると考えています。全職員がお互いに理解し合い助け合って一つのチームとして温かい医療に取り組んでいきたいと思っています。

当院は、「地域医療支援病院」として、かかりつけ医の先生方と連携しながら専門外来の充実によって紹介患者さんへの高度な医療や救急医療の提供を進めるとともに、「地域がん診療連携拠点病院」として専門的ながん医療の提供と地域のがん診療の連携協力体制の整備等に努め総合的な診療を展開してまいります。地域の先生方との連携を大切にして患者さんに満足していただける医療を提供していきたいと考えております。よろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 就任のご挨拶

福岡歯科大学  
医科歯科総合病院

病院長 鳥巢 浩幸



新人物

2025年4月1日付で福岡歯科大学医科歯科総合病院の病院長を拝命いたしました鳥巢浩幸と申します。福岡市出身で、1996年に九州大学医学部を卒業後、同大学小児科学教室に入局し、小児神経学を専門に診療・研究に取り組んでまいりました。2013年4月に福岡歯科大学に赴任し、小児科診療のほか、院内感染対策や医療情報管理に携わってまいりました。

当院は、西日本で唯一の私立歯科大学附属病院として、医科と歯科が連携した医療を提供しております。当院のコンセプトは「つなぐ病院」です。シンボルマークの4つの青い環は、「医科と歯科をつなぐ」「地域・社会とつなぐ」「教育・研究・臨床をつなぐ」「未来へとつなぐ」という理念が込められています。

福岡歯科大学の理念「口腔の健康を通して全身の健康を守る」のもと、当院では12の歯科専門診療科と22の医科診療科が連携して診療を行っています。医科歯科連携により、様々な併存疾患を有する患者さんへの歯科治療が円滑に行えるほか、慢性疾患患者の口腔内管理も同一施設内で一貫して対応できます。さらに、口腔を含む頭頸部の手術においても、必要に応じて耳鼻咽喉科や形成外科と連携する体制が整っています。今後も医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、薬剤師、リハビリ専門職など、多職種が連携し、患者さん中心のチーム医療を実践してまいります。

また、地域に開かれた信頼される病院づくりに

も力を入れています。訪問歯科センターによる在宅診療、健診センターを通じた地域住民の健康増進、さらに学校法人福岡学園が運営する介護老人保健施設「サンシャインシティ」や、関連する2つの特別養護老人ホーム「サンシャインプラザ」「サンシャインセンター」との連携により、地域包括ケアの一翼も担っています。

加えて、当院は大学附属病院として、医療人の育成にも注力しています。福岡歯科大学の口腔歯学部生の臨床実習や歯科医師臨床研修をはじめ、看護師や歯科衛生士を目指す福岡看護大学・福岡医療短期大学の学生実習も受け入れ、実践的な教育環境を提供しています。

今後、超高齢社会の進行や医療技術の高度化、医療資源の制約といった課題に対し、医療の質と経営の両立を図りながら、持続可能な医療体制を構築していく所存です。業務負担の軽減と生産性の向上を目指し、患者さんにも職員にもやさしい病院環境を整えることが、より良い医療の基盤になると考えております。

職員一人ひとりが誇りと働きがいを持ち、意見を交わしながら成長できる職場環境づくりを通じて、私たちは「地域の健康と未来を支える病院」であり続けたいと願っています。

今後とも、福岡歯科大学医科歯科総合病院に変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

# new face

新人物

## ごあいさつ

嘉麻赤十字病院

院長 波多江 健



令和6年10月より嘉麻赤十字病院の院長を拝命いたしました波多江健と申します。

昭和59年に九州大学を卒業し、九大小児科に入局しました。腎グループに所属し、福岡市立こども病院と九州大学小児科で小児の透析や移植後の管理を含む腎疾患の診療に携わったのち、福岡赤十字病院小児科に赴任し20年間あまり、腎に加え感染症や川崎病など小児全般の診療にあたりました。

九大小児科に入局したのは、小児の慢性透析の黎明期で、それまで看取るしかなかった腎不全の子供が長期生存できるようになった頃です。しかし、多くの問題を抱えていて、その解決につながる新しい手技やシステムが次々に登場していました。私も数社と自動腹膜透析装置の小児モード開発を行いました。「患者が倒れるか主治医が倒れるか、どちらが先か」と言われた時代でしたから、重症の患者さんが入院すると連日の泊まりこみでした。患者さんの変化を誰よりも早く気づいて先手を打つ。今とはかけ離れた労働環境でしたが、その中で得たものも多かったように思います。福岡赤十字病院では、一般臨床に加え、インフルエンザA(H1N1)pdm09、SARSコロナウイルス2のパンデミック対応、熊本地震など災害対応といった赤十字の取り組みを経験しました。

嘉麻赤十字病院は福岡県のへそともいわれる嘉麻市にあります。昭和13年に日本赤十字社山田診療所として発足し昭和23年筑前山田赤十字病院となった歴史のある病院です。市町村合併で山

田市が嘉麻市となったため、平成19年に嘉麻赤十字病院と名称変更されました。当院の特徴は国がすすめる「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム」で嘉麻市唯一の公的医療施設であるという点です。地域からの紹介、救急診療による医療面での役割を担うとともに、健診センター、デイケア、ケアプランセンター、訪問診療、24時間在宅サービス（定期巡回）を持ち、地域住民への医療・介護・予防・生活支援を切れ目なく提供できる全方位体制を敷いています。

旧山田市は以前、日本の産業を支えた筑豊炭田で大変栄えていましたが、現在は人口減少と少子高齢化という日本が抱えている課題の福岡県内における「先進」地域です。患者減少は避けて通れない難問です。さらに、福岡県のへそという地域の特徴は、福岡市、北九州市、久留米市といった県内の中心的な都市からいずれも距離があることを意味し、スタッフの獲得という点も大きな課題となっています。地域医療の長期展望を含めた対策が急がれます。

私にとりましては、高齢者医療が中心の病院の運営というこれまで経験のない分野で、わからないことばかりですが、舵取りを任された以上、地域医療と病院を守るべく奮闘する所存です。これからもご指導ご鞭撻、そしてご支援のほどよろしくお願いいたします。

# 未曾有の経営危機を迎えて

社会医療法人天神会 新古賀病院 総病院長 島 弘志

2020年以降コロナ対応に追われ、日常診療とのバランスを保つのに必死だった医療機関も、治療薬の普及とともにコロナの重症患者が激減し、普段の診療は大分落ち着いたものの、厚生労働省が2023年にコロナウイルスを2類相当から5類へ移行した事で、緊急包括支援交付金や都道府県の支援補助が減額され、これらの補助金で経常収支が黒字に保たれていた病院が一気に赤字に転落し、更に2024年には補助金がほぼ無くなったために、経常収支が一段と悪化してしまいました。日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会は合同で病院経営定期調査を毎年行っておりますが、これほどの収支の悪化に愕然としています。2018年度から2023年度までの6年間の医業利益の推移を

見てみると赤字幅が経年的に広がっており、経常利益の推移では、コロナ補助金等の医業外収入により2020年度から2022年度までは黒字になっていますが、2023年度には赤字に転落しており、コロナ関連、水道光熱費補助金を除くと経常利益も6年連続で赤字になっています(図1)。病院経営において診療報酬からの収入が大部分を占めますが、診療報酬改定は2年に一度であり、現在の様な水道光熱費を含む諸物価、人件費の高騰や高額薬剤、高額診療材料の使用により支出が増大しているのに対し、公定価格である診療報酬が対応出来ていないために赤字が経年的に続き、2024年は経営破綻に追い込まれた医療機関が過去最大でした。少子高齢化に伴い、労働生産人口が減少し、医師を

図1 6年連続年度比較 医業利益、経常利益



筆頭に医療従事者の雇用がままならない状況になっており、人材派遣会社に支払う委託料も馬鹿にならないほど年々増加しています。2024年度の改定では、職員の賃金上昇の為のベースアップ評価料が設けられましたが、全職種ではないため不公平感が漂っています。ベースアップは、2024年度に2.5%、本年度に2%が目標になっていますが、出したくても出せないところが多いのではないかと思います。医師以外は、他産業に比べても高給取りのイメージは全くなくなり、今後益々雇用が厳しくなるのは想像に難くありません。現在の公的保険制度は、医療費に対しては原則3割の自己負担、供出された保険料からの保険者の負担と国庫負担から成り立っていますが、診療報酬を決める厚生労働大臣の諮問機関である中央社会保険医療協議会では、中立財源という考えの下に、何かの対価を高く評価すれば、他の何かの評価を下げて全体をイコールにするのが原則となっていますが、年々増加する医療費は高齢者の医療費の伸びだけに抑えることが10年続いています。このやり方では先程から述べているような支出の伸びに制度が追い付いていないのは明瞭です。

さて、新たな地域医療構想が昨年12月に方向性が示され、都道府県が作る地域医療計画の上位に位置付けるとされました。既存の病院、診療所が存続することが前提になった上で2040年を目途に機能分化、連携を図り、地域住民が安心して生活できる地域包括ケアシステムを形成することが目標ですが、地域の中核となって高額薬剤や高額診療材料を使用している病院ほど経営が悪化しており、このまま病院に経済的支援が行わなければ、新たな地域医療構想は絵に描いた餅になり、日本の医療は歯抜け状態になるのではと危惧しています。又、医師の偏在、診療科の偏在に対して厚生労働省で検

討が進められています。専門医制度のシーリングは今も続いています、うまく機能していません。人口が更に減少していく地域では、病院も診療所も経営を維持できませんし、そのような場所に、医師を送り込むよりもきちんと診療できる医療機関へのアクセスを充実させるべきだと思います。福岡県病院協会としても基本診療料である初・再診料、とりわけ入院基本料の大幅な引き上げを強く訴える必要が有ります。医療は患者の為にあるのが当然ですが、患者を診る医療機関が倒産すれば、地域住民にとってこの上ない不幸が訪れます。然し乍ら多くの国民は病院の経営危機を感じていないと思われます。東京都の武蔵野市吉祥寺の4つの救急病院が閉院し、武蔵野赤十字病院に救急患者が集中する事態が起きています。

住民の不安な声が聞こえています。このような事態が日本中のあちこちで見受けられるようになれば最悪です。良質な医療を提供する事と健全経営を行う事が病院運営の要ですが、現状は非常に厳しいと言わざるを得ません。

話は変わりますが、来年4月から全国健康保険協会(協会けんぽ)が補助金を出して人間ドック受診を勧奨することになりました。今迄人間ドックを行っていた施設はもとより、新たに保険外収入を得たいと考えておられる病院は是非検討して頂ければと思います。ただし生活習慣病予防検診を行っていることや当日の特定保険指導などの要件がございます。

如何に無駄な支出を減らし、業務効率化を図り、収益性を高めていくかは経営の基本ですが、努力しても急性期は黒字を出し難いのが現状です。今後は高齢者救急への対応を考えると急性期から包括期(回復期)への転換や在宅を考慮した慢性期医療への対応も行える病院機能が更に評価される時代になると思われます。

# 日本整形外科学会社会保険等委員会の活動 保険審査平準化への取り組み

朝倉医師会病院  
院長

志波 直人

2007年、福岡県支払基金の整形外科審査委員を務めていたことから、当時の同審査委員会の光安元夫先生のご推薦をいただき、日本整形外科学会社会保険等委員会（日整会社保委員会）委員に就任しました。日整会社保委員会での初めての仕事は、人工関節のアウトカムに関する調査でした。日整会社保委員会では診療報酬改定に関する多くの業務は外保連関連であり、とくに手術関連は外保連試案を基に数多くの詳細な提案がなされ実績を上げていました。当方は内保連委員、内保連リハビリテーション委員会委員を担当することになり、循環器など複数の診療科の先生方との協議に参加しました。

私が個人的に最も印象に残っているのは、2012年度の診療報酬改定で「筋肉内コンパートメント内圧測定」「精密知覚機能検査」を内保連経由で提案とすることが委員会で決定し、とくに「筋肉内コンパートメント内圧測定」では、骨折治療学会から送られてきた莫大な量の資料を整理して、文献を見直し自身で提案書を作成、内保連や厚労省の担当者にプレゼンを行い、保険収載されたことです。2013年から2015年まで同委員会委員長を担当し、2025年現在、同委員会アドバイザー、日整会内保連担当委員として、内保連リハビリテーション関連委員会委員を継続しています。振り返ると、18年間同委員会活動に携わっていることになります。

日整会社保委員会の活動で最も重要なことは、新たな提案の保険収載であることは言うまでもありませんが、もう一つの重要な取り組みは、保険審査の審査員、地域による差を無くすこと、すなわち審査の平準化です。1995年か

ら、日本整形外科学会、日本臨床整形外科学会、日本整形外科勤務医会の共催により、全国整形外科保険審査員会議（全審会）が毎年開催されています。例年9月初旬の日曜日に開催され、今年で31回を迎えます。本会は、全国の整形外科の社会保険・国保健康保険等の審査委員が一同に集まり、「年々進化する診断・治療技術に対応する保険医療制度への理解を深めるとともに、実際の審査上の問題について討議する場を提供して、整形外科診療の適正化と医学的根拠に基づいた弾力的運用を行い、審査基準の平準化を図る。」が開催の趣旨となっています。会場の品川コンファレンスの大会議室に全国から350名ほどの審査員が集まり、各県毎に着席して一同に会する様子は壮観で熱気に満ちています。コロナ禍を経て現在はリモートでの参加も可能となっており、アドバイザーである当方はリモート参加が多くなっています。

本会議では予め審査委員、整形外科関連学会の保険担当委員などにアンケートを行い、審査上の問題点や疑義事項を募集し、この中から日整会全審会WGで討議し決定したものが当日の討議事項となります。会議では、説明スライド提示後、即座にアナライザーシステムで統計を出し、討議に入ります。この会議の統計や討議内容はその後製本され、全国の整形外科の各審査委員、各地区の国保連合会や社保支払い基金等のレセプト審査に関係する機関に送付されています。設定した設問では、とくに解釈が困難なものが選ばれているため、全国の審査員の回答が必ずしも一致しないこともあり、例えば3つの選択肢があった場合に、結果を示す円グ

ラフがメルセデスベンツのマークのように三分される場合もあります。そのような際は、関連の委員、コメンテーターなどが、その背景や医学的根拠等に基づく解釈を説明して、再度会場に回答を求めることもあります。もちろん容認できない内容もありますので、その際は根拠を示し不可である旨説明されます。回答を誘導するというのではなく、裏付けや根拠を示したうえで、それぞれの参加者の判断に委ねられます。参加者は審査上の日頃の疑問点を前もって日整会へ届けて設問として申請することも可能で、参加する全ての委員が、疑問や自身の方針などを発言することができ、全国の審査委員やコメンテーターなどから直接意見や助言を受けることができます。実際に審査をする立場からは、査定を行う際や医療機関から査定理由の照会があった際に、専門家から医学的根拠が示されることは、参考となり心強いものです。

会は午前の部と午後の部に分かれ、午後の部の初めには厚労省保険局医療課から、診療報酬改定に関する講演をいただくことが通例となります。これまで、30年に亘りこの会議が継続し、毎回全国から多くの審査員が参加していることは、担当の先生方が熱意を持って、多くの

労力と時間を割いて、最新の情報を提供することはもちろん、国民に平等に保険医療を提供するという理念が根底にあるためと感じています。全ての審査基準を全国一律に平準化することは容易ではありませんが、医学的根拠の下、定められた診療報酬のルールを遵守して、できる限り国内の審査基準を平準化する努力が続けられています。

日整会社保委員会を経験させていただいたことで、日々の診療行為が保険収載されるには、多くの担当者が携わり多大な努力と労力の下、最終的には国が承認するという一連のプロセスを経て収載されたものであることを経験し知ることができました。今後はさらにDX推進によるAIの普及が保険審査の省力化と審査平準化に資すると考えられ、活用が進むことが予想されています。

現在、日整会社保委員会では久留米大学整形外科で骨軟部腫瘍を担当する濱田哲也准教授が同委員会委員、外保連担当委員に就任しています。全審会のコメンテーターとしても活動しており、濱田准教授の益々の活躍に期待するとともに、今後も保険審査の動向に注目したいと思えます。



# 当院における組織改編について

社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院  
病院事務部 統括部長

岡村 亮

## 聖マリア病院の概要

所在地：福岡県久留米市

開設：1952年

許可病床数：1,097床

診療科目：42診療科

手術件数：7,584件／年

救急車搬入：12,371件／年

### 【主な施設認定】

- ・臨床研修病院
- ・地域医療支援病院
- ・災害拠点病院（地域）
- ・救命救急センター
- ・地域がん診療連携拠点病院

組織への改編を行いました。1000床規模の医療機関が、外部の力を借りずに自分たちで職種別組織からセンター制組織へ改編した取組み事例として紹介します。

## 組織改編の目的

今回の組織改編の主な目的は以下の3点に集約されます。第1に、地域のニーズに応えること。第2に、重点分野の専門性を最大限に活かし、迅速な意思決定を可能にすること。第3に、経営資源の最適化を図り、持続可能な病院運営を持続することです。

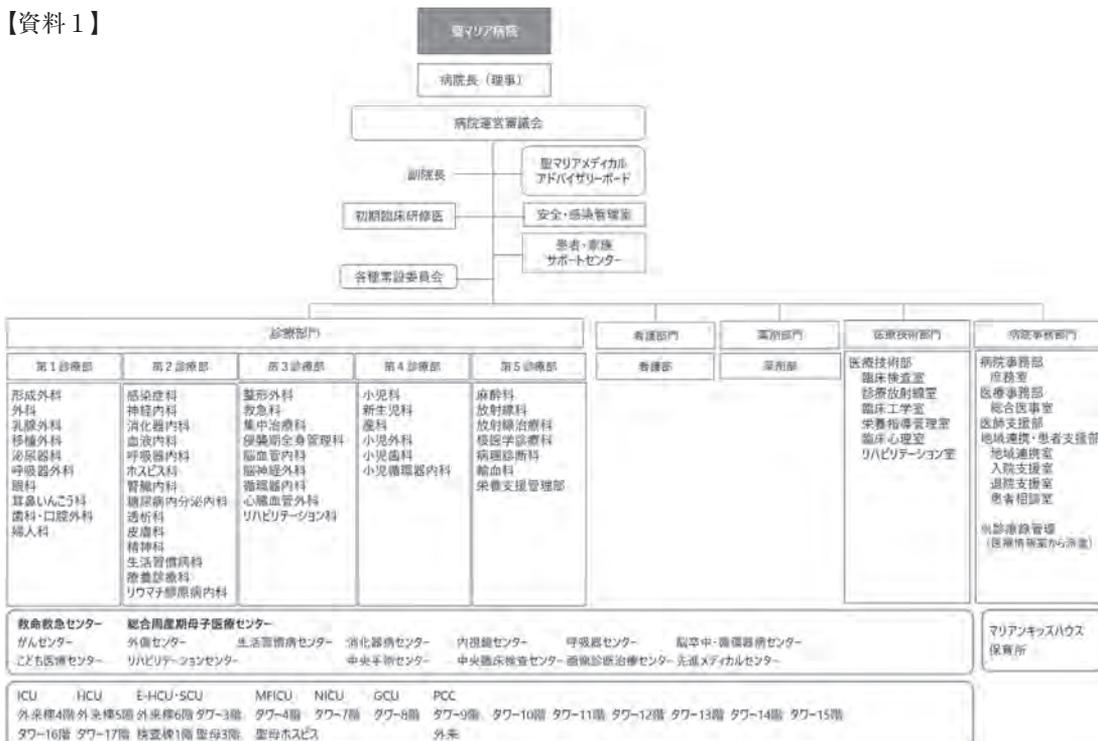
## 旧組織について（資料1）

旧組織は、病院長を筆頭に医師、看護師、薬剤師、メディカル、事務に分かれた職種別の組織形態となっています。外部の環境変化が激し

## はじめに

当院では、病院長、副院長を中心とするメンバーで約半年に渡り検討を行い、今年4月に新

【資料1】





不足にならないよう縦と横のバランスをとることが重要となります。センター内で決定できる事項については各センターで行いますが、センター間の全体的なバランスを考慮して、最終的には横軸の品質管理・運営管理部門が決定するというパワーバランスにしています。

そのほか、運営管理部門において、部門内の相互連携を図りやすくするため、1部門の規模（部署数）をこれまでより大きくしています。また、法人直轄部門として総務企画部、人事部、経理部、情報システム部がありますが、今回の病院組織図には反映されていません。

#### \*マトリクス組織とは

機能別、事業別、エリア別など、異なる組織形態の利点を掛け合わせ、同時に達成しようとする組織形態。（野村総合研究所 HP より）

### 今後の課題

今後取り組むべき課題として以下の3点が挙げられます。1つ目は、早期にセンター制の浸透と定着を図ること。2つ目は、センター長の業務配分を見直すこと。3つ目は、センター運営及びセンター長の評価を行うことです。

センター制の浸透と定着については、院内の職員が今回の組織改編について理解できるよう丁寧に伝達するとともに、スタッフの意識改革に繋げることが重要であると考えています。当院では4月に全職員を対象に事業計画説明会を実施していますが、今回はそれに加えて組織改編について病院長より説明を行いました。また、ワークフローを変更しているため、組織改編後の内部統制も行う必要があります。

センター長（＝副院長）の業務配分については、6名のセンター長のうち約半数が診療科の部長兼務となっているため、センター運営に費やす時間をどう確保していくかが重要であり、

具体的にはセンター長が参加する委員会のメンバー再編（委員長交代等）を行っています。

また、意思決定プロセスの改善には、責任と権限の明確化が必要不可欠であり、今回のセンター制移行に伴い、センター長の責任と権限、センター運営会議の位置づけなどの定義づけを行いました。今後、その評価について検討していく必要があります。

### さいごに

組織改編を進めるにあたっては、病院全体の方針との整合性を図ることに加え、「ヒト・モノ・カネ・情報」といったリソースの再配分や、病院運営のオペレーションそのものを見直す必要があります。それは単なる組織の配置換えにとどまらず、まさに一つの“改革”と呼ぶにふさわしい、大きな変化を伴う取り組みであると実感しています。

組織形態にはそれぞれ長所と短所があり、今回のセンター制への移行がすべての課題を解決する万能策とは言えません。それでも私たちは、よりよい医療提供体制を目指し、今後も最適な組織のあり方を探り続けてまいります。

当院としましては、今回の組織改編を機に、地域の医療機関、大学、医師会、行政などとの連携を一層強化し、より地域から必要とされる病院となれるよう邁進していく所存です。今後ともどうぞよろしくご厚意申し上げます。



## 病院機能評価受審を終えて

嶋田病院 診療支援部 部長 今村 知美

当院は、5月22日～23日に公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の受審を無事に終えることができました。本誌「ほすびたる」の執筆を開始した日に中間結果報告を受け取ったのは、不思議なご縁を感じます。平成17年6月に初めて病院機能評価を受審し、今回が5回目の受審となります。

今回受審した病院機能評価「3rdG.Ver.3.0」は、従来の評価からさらに進化し、「患者中心の医療」や「組織の質改善」を重視する内容となっています。第1領域「患者中心の医療の実践」では、患者の意思を尊重した医療提供体制が構築されているか、患者と職員の安全を守るための組織的な取り組みがあるかを評価されます。第2、3領域「良質な医療の実践」ではエビデンスに基づいた、標準的かつ効率的な医療の提供体制を評価されます。第4領域「理念達成に向けた組織運営」では、病院の理念や目標に基づいた、組織的・継続的な運営が行われているかを問う領域です。これらをさらに細分化した評価項目に基づき、日本医療機能評価機構が派遣する評価調査者（サーベイヤー）がその達成度などに応じて、S、A、B、Cの4段階で評価します。各項目において、解説集で求めている内容と照らし合わせて、秀でた取り組みをしている場合にはSで評価されます。

受審準備については、各領域の中項目全てに担当者を設定し、組織的な体制の確認を全項目において行なっていきました。より多くのS評価取得を目指して担当者を中心に準備を進めて参りました。受審までの期間を考慮し、具体的なスケジュールの作成、業務の運用確認、問題点の抽出、改善活動を行ないました。各部署

との調整や院内周知が必要な事例があった場合には、臨時のミーティングを開催しました。期中確認や自己評価調査票の作成も担当者にて行ないますので責任重大です。評価準備の過程では、医療安全、感染対策、記録の整備、患者中心の医療の実践など、改めて業務を見直す良い機会となりました。特に新型コロナウイルス感染症の流行で医療現場の業務や体制が大きく変わりましたので、業務手順書なども現状に即したものに改定されているか、入念に確認を進めていきました。

今回の受審を通して、日々の業務を見直す貴重な機会を得られたこと、また、職員一人ひとりが自院の役割と責任を再確認する契機となったことを、非常に有意義に感じております。

また、先日行なわれた令和7年度施設基準定例報告等説明会において、九州厚生局の指導監査課の方が、今年度から適時調査を新型コロナウイルス感染症流行以前の体制に戻すこと、3年に1度は各医療機関へ適時調査に伺います、と公言されておりました。病院機能評価で求められる項目の中には、診療録の適正な管理、医療安全対策、感染対策、職員研修、委員会活動など適時調査で確認される内容と重複するものが多くあります。このため、病院機能評価を受審し、基準を満たす体制を構築することは、結果的に適時調査における指摘事項の予防や対応にも有効です。どちらも患者中心の医療や医療の質の向上を目的としており、医療機関としての信頼性向上や説明責任の遂行に繋がります。病院機能評価受審を終えて安堵する間もなく、決意を新たに、来たるべき適時調査に備えたいと思います。

# 看護 の窓

## 新任の挨拶と新病院での 看護部の取り組み

済生会八幡総合病院  
看護部長 大原 朋子

### はじめに

2024年4月より、済生会八幡総合病院看護部長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願ひ致します。

済生会は、「生活苦で医療を受けることができずに困っている人たちを施薬救療によって救う」という明治天皇の「済生勅語」に基づいて1914（明治44）年に創設されました。当院は、1927（昭和2）年に八幡東区春の町で発足し、本年2025（令和6）年には98年目を迎えます。97年の長きにわたり地域の方々から親しまれてきた当院は、昨年12月に八幡西区則松へ移転し、移転から約6ヵ月が経過しました。

### 1. 理念を具現化した、快適な空間

新病院は、患者さんが安心して療養できる最新の医療設備と、暖かいホスピタリティを兼ね備えた設計となっています。済生会の目標である、「すべてのいのちの虹になりたい」という使命のもと、看護師ならではの視点を加え、病院に来られる方々が安心してより快適に過ごせるよう、様々な工夫を凝らしました。

#### 1) 「虹」を形にした、患者さんと医療者のためのデザイン

各病棟のフロアは虹色をベースにフロアカラーを決定しました。また急性期一般病棟は4

つのウイングに分かれており、それぞれがイエロー、グリーン、ブルー、ピンクと虹色の一部をウイングカラーとして使用しています。これは患者さんにも医療者にも分かりやすく、病院に来られるすべての方の「虹」になりたいという私たちの強い意志を形として表したものです。

#### 2) 患者さんの負担を軽減する導線と プライバシーへの配慮

外来では、診療室を一つのエリアに集中させ、中央処置室をその奥に配置しました。これにより、患者さまの導線は短縮され、処置を診察室以外ですぐに実施できるため、患者さまの待ち時間の短縮はもちろん、身体的な負担の軽減にも貢献できていると考えています。

病棟では、看護師がより患者さんの近くにいられるよう、4つのウイングごとに看護師配置



写真1 ウォーキングカンファレンスの一場面

を固定し、導線を短くしました。また、個室を多く設けているため、入院された患者さんのほとんどが景色を眺めることができ、プライバシーを十分に確保できます。

### 3) 最新設備と温かいケアの融合

各病棟には、ベッドからの起き上がりを容易にする介助バーや、トイレを支援する補助バーを設置しています。さらに、全病棟にミスト・シャワー浴を配置しました。これは、緊急で入院された患者さんにいち早く温かくて清潔な状況を提供すること、そして日常生活が低下することなく、早期に回復できることを目指した設備です。実際に患者さんやそのご家族から大変好評をいただいております。

## 2. 看護部の取り組み

新病院移転に向け、より質の高い患者中心の看護を実践するために、管理職を中心に様々な取り組みを行いました。ここでは、特に注力した3つの取り組みを紹介します。

### 1) 看護提供方式の変更

新病院の特性に合わせ、看護提供方式を継続受持ち制チームナーシングから、セル看護提供方式®へ変更しました(写真1)。この変革は、単なる業務効率化だけではなく、患者さんへの多角的な価値提供を見据えたものです。具体的には、ベッドサイドにおける直接ケア時間の増加、常に患者さんの状態を把握し、先回りした看護の提供(看護師の存在を身近に感じられる安心感)、そして患者さん一人ひとりに深く寄り添う個別性のある質の高いケアの実現を目指しました。加えて転倒・転落などのインシデントの抑制にも大きく寄与することができると考えました。

このことは、看護部にとって大きな変革でした。この重要な変革を成功させるため、レビンの行動変革モデルを適用し、この変革プロセスを体系的に進めていきました。変革の第一段階である「解凍」のフェーズでは、コアメンバーを中心に現状を明確化し、説明会を数回に分けて開催、全スタッフへ変革の必要性を提示しました。続く「移動」のフェーズでは、新しい看護提供方式をスムーズに導入するための具体的な取り組みを行いました。新しい手順書の作成と見直しを徹底し、さらに全スタッフを対象としたシミュレーション研修を実施しました。これにより、移転後の看護業務が円滑に遂行できるよう、管理職を中心に強固なサポート体制を構築しました。そして、変革を定着させる「再凍結」のフェーズでは、新しい看護提供方式が組織文化として根付くよう、業務委員が中心となり、継続的な評価と改善を行っています。

### 2) 病棟物品と配置場所の統一

全病棟において、物品と配置場所の統一を行いました。「いつでも・だれでも・どこでも同じ条件」で業務を遂行できる環境を構築することを重視しました。このことは、単なる業務効率化に留まらず、急な応援や担当変更があっても、誰もが迷わず迅速に仕事ができ、同時に心理的負担の軽減にもつながると考えたからです。結果、スタッフが安心して職務に専念できる環境が実現したと認識しています。ひいては、患者さんへ、より質の高い、安心・安全なケアの提供に繋がっていると実感しています。

### 3) 看護補助者の業務統一

これまで各病棟で曖昧だった看護補助者の業務内容を、全病棟で統一し、看護師と看護補助者が安心して協働できる内容に変更しました。業務が統一されたことで、看護師においても、

看護補助者がどのような業務を遂行できるかを容易に把握でき、よりスムーズな協働が可能になっているのではないかと認識しています。看護師が安心して患者さんのベッドサイドでケアを提供できるのも看護補助者の存在があってこそです。看護補助者の存在なくして質の高い看護の提供は成り立ちません。今後も安心して、そして誇りをもって業務に取り組めるよう支援していきます。

## おわりに

この新しい環境で、当院は地域に信頼される病院を目指して取り組みを続けます。私たち看護部は済生会の使命はもちろん、看護部の理念である、「病む人の人権を尊重し、思いやりのある温かい良質な看護実践する」を実現できる

よう、看護実践能力を磨くだけでなく、患者さまの思いに深く寄り添い、そのつらさや痛みを分かち合うことができる看護が実践できるよう、日々研鑽を重ねていく所存です。今後とも皆様の支援とご指導を承りますよう、心よりお願い申し上げます。



看護師長会

## 医療・福祉、介護など全ての医療環境をサポートします

### サービス内容

- ・医療機器、医療器具、医療消耗品の販売
- ・病院給食に関連した業務用食材及び厨房器機等の販売
- ・病院、介護施設に関する工事及び物品の販売
- ・臨床検査・水質検査・検便検査から食中毒検査などの検査
- ・看板、チラシ、インターネット等を利用した広告作製

これまで培ったノウハウを生かし、開業前の構想～開業後の施設経営まで九州・沖縄の医療機関、介護施設などの経営を全力でサポートいたします。

## 有限会社 DMS

(ドリーム・メディカル・サービス)

〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川3丁目14番20号3F  
TEL:092-525-7666・7667 FAX:092-525-7668

福岡県精神科病院協同組合

〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川3丁目14番20号2F  
TEL:092-521-0690 FAX:092-524-4632

## 医学・医療の歴史物語

### その10 ～九州大学医学部草創期の物語

国立病院機構九州医療センター 名誉院長 朔元 則  
学校法人原学園看護専門学校 顧問

#### はじめに

令和5年3月から書き始めた「医学・医療の歴史物語」もシリーズ10作目を迎えた今回でひとまず終止符を打つことにして、最後を我が母校九州大学医学部草創期の物語で締めくくらせていただくことにしたい。

#### 帝国大学誘致合戦

明治20年代後半に入って、東京帝大、京都帝大に次ぐ帝国大学を九州ならびに東北の地に新設しようという気運が高まり、九州では福岡、熊本、長崎の3県の間で激しい誘致合戦が展開され始めた。

福岡県では明治34年（1901年）に、市民を中心とした大学設置期成会が設立されて誘致運動が展開されていたが、当初最有力候補と考えられていたのは熊本県であった。熊本は九州の中央部に位置しているため、当時の明治政府機関の九州出張所の所在地は熊本に集中していたという状況に加え、藩立熊本医学校やナンバースクール第五高等学校等の教育機関も設立されていたからである。

このような熊本優勢状況の逆転に貢献したが、博多の老舗呉服店神與の3代目店主渡邊與八

郎（1866年～1911年）である。渡邊與八郎は大学設置期成会に5千円（現在の約1億円）を寄付した上、那珂川住吉村（現在の博多区清川）にあった私有地を提供して、大学設置候補地である千代松原地区の近くにあった（現在の福岡市東区千代付近から、昭和後期に水炊き料理で有名な料亭新三浦があったあたりと考えられる）遊郭を住吉村へ移転させたのである。

この移転事業を現場で説得する際に活躍したのが、遊郭大吉楼の楼主池見辰次郎であった。この池見辰次郎の御令孫が、心身医学分野の日本のパイオニアとして活躍された池見西次郎九大医学部精神身体医学初代教授（昭和16年九帝大卒、昭和36年10月～54年3月まで教授在任、平成11年6月御逝去）である。私はまだ先生が第三内科教室の講師であった時代に講義を受講した記憶がある。

渡邊與八郎は帝国大学の誘致だけでなく、博多を一周する電気鉄道会社の設立の必要性についても熱く説いて廻った。私は彼こそが福岡市発展の基礎を築いた博多商人であると評しても良いと考えている。天神町の紙与渡辺ビル、福岡パルコがある地点からホテルニューオータニ博多に至る福岡市の主要幹線道路に、「渡辺通り」という名がつけられているが、これは渡邊與八郎の功績を後世に永く顕彰するための命名である。

さらに福岡県議会も、大学設置のために37万5000円の予算と県有地8万6千余坪の無償提供を可決した。このような官民挙げての誘致運動によって、明治36年（1903年）に、「京都帝國大學ノ第二醫科大學ハ之ヲ福岡ニ置キ、京都帝國大學福岡醫科大學ト称ス」という勅命が発せられた。東京、京都に次いで3番目の帝国大学を、福



渡邊與八郎  
(1866年～1911年)

岡に設置することが決定されたのである。

### 県立福岡病院から九大医学部へ

福岡が熊本・長崎との間で繰り広げられた激的な帝国大学誘致合戦に勝利したのは、前述の官民挙げての協力態勢とともに、福岡県立福岡病院・医学校の存在が大きな力となったとも考えられている。また当時の貧弱な国家財政の状況を勘案して、当初案を医科の設立のみに絞った作戦も良かったのかも知れない。

県立福岡病院・医学校は江戸時代末期の慶應3年（1867年）に設立された福岡藩の医学校養生館をその始祖としている。養生館は明治に入って修猷館診療所、さらに福岡県福岡区立福岡医院と名称を変更して存続していたが、明治10年（1877年）に病院本館を東中洲に新築移転した。

明治24年（1891年）からは、後に福岡医科大学の初代学長に就任することになる大森治豊が校長、病院長、外科部長を兼務して奮闘した。そして明治29年（1896年）になって、東中洲の福岡藩精錬所跡地にあった県立病院は、現在の九大病

院が所在する千代松原地区（福岡市東区馬出、九大医学部75年史では福岡県筑紫郡千代村堅粕と記載されている）に新築移転したのである。将来の帝国大学への昇格を見据えていた大森治豊の大英断によるものであった。

県立病院の新築移転から10年が経過した明治39年（1906年）3月25日、京都帝国大学福岡医科大学が創設された。東京帝大、京都帝大に次ぐ全国で3番目の帝国大学が福岡の地に誕生したのである。

その後明治44年（1911年）に福岡医科大学は九州帝国大学医科大学と改称され、初代総長には山川健次郎が就任した。その後他学部も併設されたため、大学は大正8年（1919年）に医科の名称を削除して九州帝国大学と改称、さらに太平洋戦争終結後の昭和22年（1947年）には「帝国」の二文字が削除されて九州大学となり、平成16年（2004年）の小泉純一郎内閣の省庁再編によって、国立大学法人九州大学となり現在に至っている（表I）。

表 I 九州大学医学部の変遷  
(2014年第115回日本医学史学会記録より一部改編)

| 千代/松原（現在地）時代   | 東中洲時代   | 天神/町時代                          | 土手/町時代  |
|--|---|---------------------------------|---|
| <p>国立大学法人九州大学医学部</p> <p>九州大学医学部</p> <p>九州帝国大学医学部</p> <p>九州帝国大学医科大学</p> <p>京都帝国大学福岡医科大学</p> <p>県立福岡病院</p> | <p>奥村醤油干場<br/>股部太右エ門材木置場</p> <p>福岡県区福岡医院<br/>(変則)医学校併設</p> <p>県立福岡医学校</p> <p>県立福岡甲種医学校<br/>(乙種薬学校併設) 附属病院</p> <p>県立福岡病院</p> | <p>仮病舎時代</p> <p>福岡県福岡区立福岡医院</p> | <p>福岡藩医学校</p> <p>養生館(医学部)<br/>(附属病院) 治療所</p>                                    |
| <p>平成十六年</p> <p>昭和二十二年</p> <p>大正八年</p> <p>明治四十四年</p> <p>明治三十九年三月二十五日</p> <p>明治二十九年</p>                   | <p>明治二十四年</p> <p>明治二十一年</p> <p>明治十八年</p> <p>明治十六年</p> <p>明治十二年</p>  | <p>明治十年</p> <p>明治八年</p>         | <p>明治五年</p> <p>同七年末</p> <p>同三年設置</p>  |
| <p>初代学長 大森治豊</p> <p>総長 山川健次郎</p> <p>院長 大森治豊</p> <p>副院長 内科部長 熊谷玄巨</p> <p>外科部長 大森治豊</p>                    | <p>校長 香江 誠 (県庁と兼務)</p> <p>校長 大森治豊</p> <p>校長 香江 誠</p> <p>校長 大森治豊</p> <p>校長 大森治豊</p>  | <p>院長 西川黙藏</p> <p>院長 大河内和</p>   | <p>六人の医師にて診療所開設</p> <p>医学校再開の建議</p> <p>河嶋養林 香江 誠 有吉周平</p> <p>百武萬里 前田凌海 吉富洞彦</p> |

## 大森治豊と山川健次郎

ここで九州大学創設に貢献した二人の人物、大森治豊と山川健次郎について詳述しておかねばならない。

おおもりはるとよ  
大森治豊(1852年～1912年)は出羽国上山藩(現在の山形県上市)の御典医の長男として、嘉永5年11月(1852年12月20日)に出生。明治12年(1879年)東京帝国大学医学部を卒業後、直ちに県立福岡医学校の教師として赴任している。東北出身の人物が、大学卒業直後に遠く離れた福岡の地へ赴任してきた理由についてはよく判らない。

大森治豊は外科医として大活躍する傍ら、外科学の発展のために日本外科学会を開設することにも奔走した。そして東京帝大の佐藤三吉教授等の協力もあって、第1回日本外科学会総会が明治32年(1899年)に開催されるに至ったのである。明治38年に開催された第6回日本外科学会総会では「福岡醫科大學大森外科ニ於ケル胃疾患ニ対スル従一八九九年至一九〇四年六年間ノ手術ニ就テ」という大変長い演題で213例の手術例の報告がなされている。

明治37年(1904年)9月、福岡医科大学には、いま1つの外科学講座が新設され、大阪府立医学校より三宅速教授が赴任された。これによって大森外科教室は第一外科と呼称され、三宅外科教室は第二外科教室と呼称されるようになった。

大森治豊教授は明治39年(1906年)4月、第

7回日本外科学会総会を会長として主宰されたのち、同年8月病を得て退官された。大森教授御退官におよび、三宅速教授の第二外科教室が第一外科教室と呼称されるようになり、大森外科(第2代目として明治40年に中山森彦教授が継承)はその内容に変化なく第二外科教室となり、その名称のまま現在に至っている。

やまかわけんじろう  
山川健次郎(1854年～1931年)は陸奥国会津藩(現在の福島県会津若松市)の藩士の三男として嘉永7年7月(1854年9月9日)に出生。明治元年(1868年)の戊辰戦争では会津城籠城戦に兵士の一人として参戦している。このあたりの物語については、同じ会津藩出身の新島八重を主人公にして描かれた、平成25年(2013年)放送のNHK大河ドラマ「八重の桜」に詳しい。

山川健次郎は戊辰戦争終結後に猪苗代に謹慎の身になったが越後に脱走し、長州藩士奥平謙輔の書生となった。明治4年(1871年)官費留学生に選抜されてアメリカへ留学、イェール大学で哲学士の学位を得たのち明治8年(1875年)に帰国。この時健次郎と一緒に留学したのが、健次郎の末の妹で後に大山巖陸軍元帥の夫人となる山川捨松(当時13歳)と津田塾大学の開祖となる津田梅子(当時8歳、現在の5千円札に肖像)である。

健次郎は帰国後東京帝国大学教授補になり3年後の明治12年(1879年)には日本人として初の物理学教授に就任。明治34年(1901年)には48歳で東京帝国大学総長に就任した。明治維新直後



大森治豊  
(1852年～1912年)



山川健次郎  
(1854年～1931年)

の動乱期であるとは言っても、会津という所謂賊軍出身の身でありながら、その立身出世の早さは真に驚くべきものがある。日露戦争の時には、すでに東京帝大総長の立場にあったにも拘わらず、「一兵卒として従軍させろ」と陸軍に押し掛けて人事担当者を困惑させたというエピソードも残っている。優れた知性と、「熱男」の一面を持つ傑出した大人物であったのであろう。

山川健次郎は後に戸水事件と呼ばれる東京帝大教授による日露戦争非難事件が起こった責任をとって明治38年(1905年)東京帝大総長を辞任したが、その後安川財閥安川敬一郎の資金拠出による明治専門学校(現在の九州工業大学)の設立に協力し初代総長に就任した。それが切っ掛けとなって九州との縁が生まれ、明治44年(1911年)4月1日、九州帝国大学の誕生とともに初代総長に就任したのである。九州帝大の総長を2年余務めた大正2年(1913年)になって、再び懇請されて東京帝大総長に復帰し大正9年(1920年)まで総長を務めた。しかし残念ながら胃潰瘍出血のため昭和6年(1931年)6月26日逝去。享年76。

山川健次郎は真に明治を代表する学者であり、かつ大学経営学者であったと評して良い人物であろうと私は考えている。

## 一高生たち福岡に来る

このような紆余曲折を経て誕生した福岡医科大学であるが、福岡という九州の片田舎の町(当時の人口は約7万人、電車もバスも走っていなかった)の大学に、優秀な学生たちを集めるのには難渋するのではないかと考えられていた。

明治36年当時の大学進学システムでは、官立高等学校(東京の一高から鹿児島の高七までのいわゆるナンバースクールに山口高等学校を加えて、全国に計8校が存在していた。名古屋に八高が出来たのは明治41年)の生徒たちは無試験で帝国大学医科へ入学出来ることになっていたが、東京帝大や京都帝大に希望が集中していたのである。

しかし明治37年(1904年)、新設の福岡医科大学に、27名の一高生が入学するという当時の大学関係者にセンセーションを巻き起こす事件が発生したのである。少し長くなるが、その経緯について、小野寺龍太(小野寺直助九大第三内科初代教授の御令孫)著の「日露戦争時代のある医学徒の日記~小野寺直助が見た明治」(弦書房、2010年刊)から引用させていただく。

福岡に行きたがらない学生たちを見て一高のドイツ語教師丸山通一先生は憤慨した。そして熱血の愛国者であった彼は明治37年晩春の授業時間中、医科志望の学生たちに次のように演説した。時は日露開戦直後であったことを念頭に置いて読みたい。

「君らと同じ年配の青年たちは旅順や金州で勇ましく戦い、死んでいる。彼等が自分の生命を賭してお国のために戦うのと同じく、君たちは学問の世界でお国に奉公しなければならない。それがこの非常時に国家の金を使って高校や大学で安穩に勉強させてもらっている諸君の義務である。

諸君の多くが今東京帝大に願書を出しているのは僕も知っている。それは悪いことではないが、その際諸君の心に東京帝大に入れば立身出世を遂げ易いというような利己心が働いているとすればそれは卑しいことである。日本は東京だけではない。九州に居る人々も北海道に居る人々も同じ我が同胞である。そのような僻遠の地に新しい医療を施し、苦しんでいる人々を助けてこそ仁術ではないか。そのために政府も昨年九州に医科大学を創設したのである。それなのに福岡は田舎で楽しみがないとか、矢張り東京帝大を出ないと社会に出て幅が利かないとかいう理由で福岡医科大学を嫌うのは利己的であって、『嗚呼玉杯』を歌うような諸君に似合わしからぬことではないか。

最近連合艦隊で旅順港閉塞のための決死隊を募ったら多くのものが応募して選抜するのに苦しんだそうだ。諸君もかれら兵士

たちに負けず、学界の決死隊になる意気込みをもって福岡に行き、そこで立派な業績を残して手柄を立ててみないか。僕としてはこのクラス全員が福岡に移住して一高村を建ててくくらいの意気込みがあってくれたらいいと思っている」

この演説は大変効果的であった。27名の一高生が東京帝大に出していた願書を引っ込めて福岡医科大学に再提出したのである。

この時一高から福岡医科大学へ入学してきた27名の中に、後に九州帝大第三内科初代教授に就任する小野寺直助、衛生学第3代教授の大平得三、泌尿器科学初代教授高木繁、岡山大学教授田村於菟、久留米大学教授木村律郎らの名前がある。小野寺は岩手県前沢(現在の奥州市)の出身、大平は山形県酒田、高木は東京、田村は福島、木村は神奈川の出身で、箱根峠を越えて日本列島を西下したのは、全員にとってこの時の福岡行きが初体験であった。

本稿で紹介した小野寺龍太九州大学名誉教授(1945年～、工学博士)の御著書には、九大医学部草創期の数々のエピソードが満載されている。御興味のある方は是非御一読されることをお勧め申し上げる。

## 明治・大正期に活躍した教授群像

前項で取り上げた大森治豊、山川健次郎、小野寺直助他の人物以外で、九大医学部草創期に活躍された人物について簡単に御紹介しておきたい。

### 久保猪之吉 (1874年～1939年)

明治33年東京帝大卒。ドイツのフライブルグ大学のキリアン教授の下に留学後、1907年に福岡医科大学耳鼻咽喉科教授に就任。日本に初めて



内視鏡検査を導入し、気管・食道鏡検査の開祖として有名である。

久保は臨床医としても卓越した技術を誇っていたので、彼の外来、病棟はまさに「門前市を成す賑わい」であった。アララギ派の有名な歌人長塚<sup>ながつか</sup>節<sup>たかし</sup>(1879年～1915年)が、夏目漱石の紹介状持参で福岡までやってきて受診したというエピソードも残っている。久保猪之吉、よりえ夫人のお二人が、歌人としても有名であったことが関係しているであろう。

### 田原 淳 (1873年～1952年)

明治34年東京帝大卒。ドイツ・マールブルグのアショッフ教授の下に留学し心臓解剖学を研究。1905年心臓刺激伝導系に重要な役割を持つ房室結節(田原結節)を発見した。



1906年に帰国し福岡医科大学病理学教室の助教授に就任し、1908年に教授に昇任。この業績は今日の不整脈治療の基礎となるものであり、田原淳は「ペースメーカーの父」と呼称されている。

### 宮入慶之助 (1865年～1946年)

明治24年東京帝大卒。ドイツ留学を経たのち1891年福岡医科大学衛生学初代教授に就任。1913年、筑後川流域において日本住血吸虫の中間宿主である小さな巻貝(ミヤイリガイ)を発見、住血吸虫病の撲滅に貢献した。ノーベル賞候補に推薦されたが実現しなかった。



<sup>いなだりょうきち</sup>  
**稲田龍吉** (1874年～1950年)

明治33年東京帝大卒。1905年福岡医科大学内科学の初代教授に就任。ウイルスの病原体スピロヘータを発見、ノーベル賞候補に推薦された。



1920年東京帝大教授に就任。1934年に癌研究会附属病院が開設された時の初代院長、1943年には日本医師会会長に就任し活躍した。

<sup>みやげ はやり</sup>  
**三宅速** (1867年～1945年)

明治24年東京帝大卒。ドイツ・プレスラウ大学のミクリッツ教授の下に留学後、1964年大森治豊から招聘されて福岡医科大学第二外科教授に就任した内臓外科手術の名手。



1922年北野丸で来日途上にあったアインシュタインが体調不良に陥った時、たまたま欧米視察旅行からの帰途にあった三宅速が船上で診察、その後親交を深めたエピソードは有名である。

<sup>はしもと はかる</sup>  
**橋本策** (1881年～1932年)

明治40年第1回生として福岡医科大学を卒業後三宅外科に入局。1911年4月教室で経験した甲状腺腫症例を「甲状腺淋巴腫様変化ニ関スル組織的並ビニ臨床知見ニ就キテ」という演題で発表、翌1912年にドイツ語の論文としてまとめた。昭和に入ってこの甲状腺腫が自己免疫性疾患であることが確認され、「橋本病」という名称で呼ばれるようになった。

橋本はドイツ ゲッチンゲン大学に留学したが、第一次世界大戦の勃発で急遽帰国すること

を余儀なくされ、その後35歳の時に父親の後を継いで開業した。



九大医学部同窓会名簿を繙いてみると、同級生に赤岩八郎第一外科教室第2代目教授（二高出身）、後藤七郎第二外科教室第3代目教授（五高出身）のお名前が記載されている。

## おわりに

今年九大医学部が設立されて122年が経過した年に当る。私が卒業したのは62年前の1963年（昭和38年）であるから、私は九大医学部の歴史の丁度中間点に位置する存在であると言えよう。

本稿では九州大学の正式の歴史書である「七十五年史（昭和54年発刊）」に加え、2014年（平成26年）の第115回日本医史学会でWolfgang Michel 九大名誉教授が発表された時の資料、私自身が編集に関与した「九大第二外科教室七十五年の歩み」「我ら華のサンパチ50年の軌跡」、佐藤裕博士（昭和53年九大医学部卒、第一外科出身）が西日本シティ銀行発刊の「博多（通巻96号）」で語っておられる「九州大学医学部のきらめく博士たち」を参照させていただき、出来るだけ判り易く平易に記述したつもりである。当然のことながら登場する各個人についてはウィキペディアの記述も参照している。

九州帝国大学医科大学に名称変更されたのが明治44年（1911年）のことなので、ウィキペディアでは「九州帝大は東北帝大（明治40年創立）に次ぐ4番目の帝国大学」と記述されているが、本稿では福岡医科大学の創立（明治39年）を以って、九州大学創立とさせて頂いている。

本稿が読者の皆様にとって、九州大学医学部草創期の出来事に興味を持っていただける切っ掛けになり、後世に長く語り継がれていくことを祈念している。

## 第10回 病院研修会のご案内

日時 令和7年11月6日(木) 18:00~20:15 (受付開始17:30~)  
会場 西鉄イン福岡 2階 大ホール  
共催 一般社団法人福岡県私設病院協会  
後援 福岡県、公益社団法人福岡県医師会、公益社団法人福岡県看護協会  
参加費 1名につき 3,000円  
申込み 10月23日(水)までに福岡県病院協会事務局 (fax092-436-2313)へお申込み下さい。

テーマ 「病院経営苦難の時代を乗り越える！」

講演1 『VUCAの時代の医療経営』 18:00 ~ 18:40

講師：一般社団法人日本病院会 副会長

社会医療法人天神会新古賀病院 総病院長

島 弘志

座長：社会医療法人財団白十字会白十字病院 病院長

瀧野 泰秀

講演2 『攻めながらソフトランディング』 18:40 ~ 19:20

講師：佐賀県病院協会 会長

社会医療法人祐愛会織田病院 理事長

織田 正道

座長：公益社団法人福岡県病院協会 理事

医療法人西福岡病院 院長

渡邊 憲太郎

講演3 『不確実性の時代：3つの視点で生き残れ！

「病床管理 PFM」「戦略的増患」「働き方改革」

～筋肉質医療とデータ活用術～』 19:30 ~ 20:10

講師：(株)グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン

コンサルティング部門 シニアマネジャー

塚越 篤子

座長：公益社団法人福岡県病院協会 専務理事

福岡県済生会二日市病院 院長

壁村 哲平

\*お問合せは福岡県病院協会事務局 (TEL 092-436-2312/E-mail fukuoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp) までお願いいたします。

## 人体旅行記 乳房（その二十九）

国立病院機構都城医療センター  
院長 吉住 秀之

雄にも授乳能力があった際の利点としては、生まれ落ちてから一定期間親による養育を必要とする以上、両親とも哺乳できた方が、子のすみやかな成長と自立には有利に作用することがまず考えられます。しかし雄の立場からすると、目の前の子がほんとうに自分の遺伝子を受け継いでいる子なのかという問題が常につきまといま<sup>1)</sup>。もし他の雄の子だとしたら（仮に授乳できた場合）自分とは何の関係もない個体にみすみす栄養を貢ぐことになり、明らかに不利です。したがって授乳能力が進化する前提として、一夫一妻（もしくは一夫多妻）制がきちんと守られる行動が進化している必要があるでしょう。野生動物では相手が不在の際に、かなりの率で浮気をしているという動物行動学上の報告もあることから、雄に授乳の潜在能力があっても現実にその形質が進化するのには困難だったのかもしれない。進化的に私たちに近いサルではどうかというとアザラヨザル (*Aotus azarae*) は、非常に強固な一夫一妻制をとることが知られていて、雄も積極的に子の養育に関わるそうですが、それでも授乳するのは雌だけです。一夫一婦制の進化からさらに雄の授乳能力の進化へと進むには厚い壁がありそうです。

そんなことを考えていたら、まったく違う観点から雄には授乳能力が進化しなかった理由を数理モデルによって考察した論文を目にしました<sup>2)</sup>。この論文の著者らによると、哺乳類の雌は出産・授乳する際にさまざまな微生物を子に垂直感染させることがあり、授乳すると子の消化管に（善玉悪玉含め）多彩な共生微生物を受け渡すことになります。雄も授乳したとすると、生存に不利になる共生微

生物を受け渡してしまうリスクが二倍になるという仮定に基づいて、世代を経るごとに片親だけが授乳する生物が進化するシミュレーションを報告しています。先に乳汁の起源として卵を護る抗菌物質説について触れましたが、もしこの説が妥当ならば、哺乳類への進化において病原微生物からの淘汰圧は相当に強かったと考えられます。しかしそれに抗して哺乳類は地球上で進化し繁栄しました（哺乳類万歳）。感染症からの脅威を制御できるならば、男性が授乳能力を獲得するように進化するのもあながち夢物語ではないのかもしれない。

今年の年末もベートーヴェンの第九に乗せて歓喜の歌の合唱が各地で行われることと思いますが、その歌詞の一節にも、こう謳われています。

Freude trinken alle Wesen  
An den Brüsten der Natur  
すべての生物は自然の乳房にすがって  
喜びを飲む

（シラー『歓喜に寄す』）

哺乳類の益々の健勝と発展を祈念したいと  
思います。

- 1) これは生物学上の問題にとどまらず、小説や戯曲など文学でも頻繁に登場する（時に深刻な時に滑稽な）問題です。父親という存在は、自分の子が実は遺伝的つながりのない赤の他人ではないかと膨大なエネルギーをかけて詮索するという特異な性質があります。
- 2) Fagan BT et al. (2024) Maternal transmission as a microbial symbiont sieve, and the absence of lactation in male mammals. *Nat Commun*; 15: 1-12.

## じまんの石

医療法人隆幸会 河内病院

法人事務局長 江口 健

子供の頃から本棚に父親が読む歴史小説がたくさんあり、暇つぶしに本を読み始めてから歴史が面白くなった。学校の授業も戦国武将や幕末の志士の話が面白かったので苦にならなかった。そのうちに私の心をつかんだのは歴史を感じられる「お城」だった。石垣、堀、天守、それぞれの意匠や構造に、築かれた時代の知恵と戦略が見える気がして、毎年各地の城を訪ね、当時の状況や佇まいを「感じる」ことを楽しんできた。

そんな私にとって。まさか職場のすぐそばに「歴史を感じられるもの」があるとは思ってもなかった。ある日、勤務先の裏手を歩いていると、草むらの中に苔蒸した石を見つけた。よく見るとそこには風化した文字。「此れより西、筑前国」と読めた瞬間、すごい衝撃をうけた。江戸時代、このあたり（私たちの病院の敷地）は豊前国と筑前国が接していた地域だったらしい。境界石は現代でいえば国境指標のようなもの。藩と藩の間に張り巡らされた「見えない線」を視覚化するもの。私が勤務するこの病院の敷地が「筑前国」と「豊前国」に分かれているとは！ 関門トンネルを渡っている時の下関市と北九州市の間を跨いだ時の感覚。よくわからないが、「なんか楽しい！」という感覚がこみ上がってくる。そういえば、北九州市が各区でそれぞれ特長があるのは、筑前と豊前の2つの国にまたがっているから、文化も異なるからだと思いたことがある。そんなもんかと思っていたが、その「現場」を垣間見たような気がして、うれしさもこみあげてくる。

城も石もただそこに在るだけなのに、色々な事を感じ、考えさせてくれる。今は皿倉山の裏

側にあるこの場所は、昔は今より人々の往来が多かったのか？ 旅人や商人が一生懸命歩いてここを越えていたのだろうか？ 坂本龍馬や吉田松陰もここを通ったかもしれない、などなど。この境界石を見るたび、当時を想像してしまう。江戸の昔から令和の今まで、この地の変換をみてきたのだろうかと思うと、何故かこの石がとても頑張っているように思えて、「自分ももっと頑張らなければ」と頭が下がる。

今回の投稿に際して、何か病院の自慢になるようなものを書こうと思って筆をとったが、こんな話で良いのだろうか。おそらく、うちの病院の人たちは「もっと他にも自慢できるものがあるだろう！」と言うに違いない。確かにある。自然豊かな環境、勤務する職員の情熱、献身、他にもたくさん。しかし、私にとっては「こんなすごい石」が病院の敷地内にあることは大きな自慢！ みなさん、ごめんなさい。今回はこの石を自慢させてもらいました。



当病院の敷地にある石碑  
(筆者撮影)

## ◎ 令和7年度 第4回理事会

日時 7月8日(火) 午後4時〈会議室〉

- 議題 1. 会長あいさつ  
2. 協議事項  
    (1) 会員異動について  
    (2) 研修会について  
    (3) 地域医療構想について  
    (4) 福岡県医療費適正化計画推進委員会委員の推薦について  
3. 会議報告  
4. 報告事項  
    (1) 私設病院協会 (2) 看護学校 (3) 医療関連協業組合 (4) 全日病、日慢協、日医法人協他連絡 (5) その他

## ◎ 事務長会運営委員会

日時 7月17日(木) 午後3時〈会議室〉

- 議題 1. 協議事項  
    (1) 9月研修会について  
    (2) 人材確保について  
2. 報告事項

## ◎ 7月研修会〈参加数 83名〉

日時 7月23日(木) 午後4時

〈天神ビル11階 10号会議室〉

演題 「新たな地域医療構想と病院」

講師 福岡国際医療福祉大学

ヘルスサービスリサーチセンター 所長  
看護学部 教授 松田 晋哉 氏

## ◎ 看護部長会運営委員会

日時 8月8日(金) 午後3時〈会議室〉

- 議題 1. 協議事項  
    (1) 11月研修会企画案について  
    (2) 診療報酬改定の経過措置期間を終えての取り組みについて  
    (3) 外来の看護師の配置について  
    (4) 障害者の就労について  
2. 報告事項

## ◎ 広報委員会

日時 8月12日(火) 午後3時45分〈事務室〉

議題 福私病ニュースの編集について

## ◎ 令和7年度 第5回理事会

日時 8月12日(火) 午後4時〈会議室〉

- 議題 1. 会長あいさつ  
2. 協議事項  
    (1) 会員異動について  
    (2) 研修会について  
    (3) 地域医療構想について  
    (4) 事務長会運営委員会委員の変更について  
    (5) 会員の加入促進について  
3. 会議報告  
4. 報告事項  
    (1) 私設病院協会 (2) 看護学校 (3) 医療関連協業組合 (4) 全日病、日慢協、日医法人協他連絡 (5) その他

## ◎ 8月研修会〈参加数 140名〉

日時 8月26日(火) 午後3時

〈天神ビル11階 10号会議室〉

演題 「医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査等について」

講師 福岡県保健医療介護部医療指導課  
医療指導係長 佐藤 浩一郎 氏

## ◎ 予算に関する要望書提出

日時 8月26日(火) 午後3時30分

〈財務省 副大臣室〉

対応者 横山 信一 財務副大臣

出席者 中尾会長・津田副会長

要望概要

- 医師の人件費等の経費についての調査を行った結果を参考に、医師の働き方改革に係る経費の増加に対する必要かつ十分な財政措置について要望

# 駅やホームに広告を 掲載しませんか？



- ✓看板
- ✓ポスター
- ✓ホームページ制作
- ✓WEB広告など

各種取り扱っておりますので  
お気軽に弊社へ  
ご相談ください



総合広告代理店

## JR九州エージェンシー株式会社

福岡市博多区博多駅前3-8-10 九勸末広通りビル

☎ 092-260-5062 (平日 9:00~17:00)

✉ [voice@jrkyu-ag.co.jp](mailto:voice@jrkyu-ag.co.jp)



## 編集後記

ほすぴたる 780 号をお届けします。

猛暑を通り越した“超猛暑”による健康障害、豪雨（超豪雨）のもたらす悲惨な水害、いかに自然のなせる技とはいえ、大変心の痛む今年の夏でした。

そのような暑い中、皆様より多くの貴重なご寄稿を賜り、それぞれの立場から、医療における多くの問題点を浮かび上がらせて下さいました。時宜を得た現場の声が寄せられ、示唆に富む、すばらしいものばかりでした。著者の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、最近、テレビなどで話される言葉でその意味がわからないものに出会います。先日もそのような言葉に出会いました。若者言葉だろうと聞き流していたら、結構な年配の方でも使っているのを聞き、これは知らなければと思ったもの

があります。“がち”という言葉です。Web で調べてみると“真剣に”、“本気に”という意味のようです。相撲の世界で、真剣勝負を意味する「がちんこ」からきたものだそうです。えっ、そんなこと常識だよ、と言われそうですが、若者を中心に言葉が変わっていくことは、世の常なのかもしれません。若者の言葉に顔をしかめていた大人たちが「これ、めっちゃおいしいですね」と言っているのを聞くとそう思います。

言葉が流れていくのは、致し方ないことかもしれませんが、言葉の持つ重みはそこなわれないようにと、“がち”に祈っております。

(岡嶋泰一郎 記)

---

## ほすぴたる

第 780 号

令和 7 年 9 月 20 日発行

発行 ◎ (公社)福岡県病院協会

〒 812 - 0016 福岡市博多区博多駅南 2 丁目 9 番 30 号  
福岡県メディカルセンタービル 2F  
TEL092 - 436 - 2312 / FAX092 - 436 - 2313  
E-mail fukuoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp  
URL <http://www.f-kenbyou.jp>

編集人 ◎ (公社)福岡県病院協会

制作 ◎ (株)梓書院

〒 812 - 0044 福岡市博多区千代 3 - 2 - 1  
麻生ハウス 3F  
TEL092 - 643 - 7075 / FAX092 - 643 - 7095  
E-mail : [mail@azusashoin.com](mailto:mail@azusashoin.com)

編集主幹…中村 雅史

編集委員長…岡嶋泰一郎

編集副委員長…平 祐二

編集委員…壁村 哲平・岩永 知秋

中房 祐司・伊東 裕幸

横倉 義典・大嶋 由紀

---

# 第16回県民公開医療シンポジウム

# 健康で 長生きする ためのヒント

入場無料

～あなたの体力、睡眠、そして肺炎の予防は?～



令和7年

日時

9月27日(土)

14:00～16:00  
(受付 開場13:00)

会場

アクロス福岡 国際会議場  
〒810-0001  
福岡市中央区天神1丁目1-1  
電話:092-725-9113



定員 198名 (事前申込不要)

主催 公益社団法人福岡県病院協会

後援 福岡県、福岡市、(公社)福岡県医師会、(公社)福岡県薬剤師会、(公社)福岡県看護協会、(公社)福岡県栄養士会、(公社)福岡県診療放射線技師会、(公社)福岡県理学療法士会、(公社)福岡県作業療法協会、(一社)福岡県言語聴覚士会、(公社)福岡県歯科医師会、(一社)福岡県臨床衛生検査技師会、(一社)福岡県私設病院協会、(一社)福岡県精神科病院協会、(一社)福岡県医療法人協会、(一社)福岡県病院薬剤師会、日本糖尿病協会福岡県支部、(一社)福岡市医師会、(一社)福岡市歯科医師会、(一社)筑紫医師会、(一社)粕屋医師会、(一社)糸島医師会、(一社)宗像医師会、西日本新聞社、毎日新聞社、朝日新聞社、NHK福岡放送局、(株)福岡放送、RKB毎日放送、(株)テレビ西日本、KBC、テレQ (順不同)

主催 公益社団法人福岡県病院協会 TEL 092-436-2312 URL <http://www.f-kenbyou.jp>  
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号福岡県メディカルセンタービル 2階

## 1 開会のことば

公益社団法人福岡県病院協会 会長  
九州大学病院 病院長

中村 雅史

## 2 シンポジウム

座長

久山療育園重症児者  
医療療育センター センター長

岩永 知秋



講演① 「フレ、フレ!/フレイル知らずの  
明るいシニア生活のために」

特定医療法人社団三光会  
誠愛リハビリテーション病院 院長

長尾 哲彦先生



講演② 「良い睡眠のために」

国立病院機構福岡病院  
睡眠センター 前センター長

中野 博先生



講演③ 「肺炎とその予防」

産業医科大学病院 副病院長  
産業医科大学医学部 呼吸器内科学 教授

矢寺 和博先生

質疑応答

## 3 閉会のことば

公益社団法人福岡県病院協会 副会長  
医療法人原三信病院 理事長

平 祐二